

# 第1学年英語科学習指導案

日時 令和3年11月2日(火)

学級 宮古市立河南中学校 1年B組 32名

授業者 教諭 高橋 倫幸 (T1)

教諭 高橋 広美 (T2)

**1 単元名** Research on Australia (SUNSHINE English Course 1 開隆堂)

**2 内容のまとめ** 「話すこと [やりとり] ア」

## 3 単元の目標

(1) 町や地域にあるものや交通手段について、英語で表現することができる。 【知識及び技能】

(2) 宮古市を訪れる外国人旅行客に宮古市のおすすめを紹介することができる。

【思考力、判断力、表現力等】

(3) 相手に伝わるように、宮古市のおすすめを紹介しようとしている。

【学びに向かう力、人間性等】

## 4 単元について

### (1) 生徒について

ア 1学期は Our Project 1 「あなたの知らない私」において、内容のまとめ「話すこと [発表イ]」から単元の目標を設定し、自己紹介を行った。その目標の達成に向けて、各プログラムで自己紹介につながる表現について重点的に触れ、Our Project 1 へとつなげた。

イ 話すこと [やり取り] については、1学期に行ったパフォーマンステストでは、教師やALTからの質問を理解し、自分の意見を伝えようとしている生徒が多く、主体的に学習に取り組んでいた。

ウ 小学校の外国語では東北地方の各県の有名な場所や食べ物、お祭りについて、グループや個人で発表などを行ってきた。そこで今回の単元では、小学校で培った力を土台にさらに力を向上させるために宮古市のおすすめの食べ物について、やり取りを通して紹介できることを単元のゴールとする。

### (2) 教材について

ア 本単元は、健がパソコン室での調べ活動とオーストラリアからの留学生との対話を通して、オーストラリアの世界遺産や気候、クリスマスの文化について知る場面で構成されている。オーストラリアは社会でも学習しており、教科等横断的な視点も踏まえながら、内容理解を進めていきたい。扱う言語材料は「There + be 動詞」、「How」についてとなるが、教科書のように場面状況を意識させた言語活動を通して適切に活用できるようにしたいと考え、単元の目標を「宮古市を訪れる外国人旅行客に、宮古市のおすすめの食べ物を紹介する」と設定した。

イ 単元のまとめとなる活動では『中学校学習指導要領解説外国語編』の目標「(3) 話すこと [やり取り] ア 関心のある事柄について、簡単な語句や文を用いて即興で伝え合うことができるようにする」を達成するために、宮古市を訪れている旅行客にALTを見立て、宮古市のお

おすすめの食べ物について紹介する。Scenes では、単元のゴールに向けて必要な言語材料を教師や生徒間とのやり取りを通して習得し、Think では内容理解を深めながら、言語材料の使用場面についても学習し、パフォーマンステストに役立てていく。そして、単元のまとめとしてALT からの質問に対し、場面状況を理解しながら即興で答えることができるように言語活動を進めていく。

### (3)指導について

- ア 本校ではユニバーサルデザインの視点を取り入れ、全ての子どもが「わかる・できる」という実感がもてるように授業づくりを配慮、工夫している。英語科ではパワーポイントや学習支援アプリ「ロイロノートスクール」を活用し、文法事項の視覚化を図るなどの工夫を行ってきた。また、今単元の最初にはパフォーマンステストのモデルを映像で提示し、身に付けたい資質・能力を全体で共有・焦点化できるようにした。
- イ 即興でやり取りする事や会話を継続・発展させるための指導方法として、帯活動を取り入れ、既習事項を用いた質問のやり取りや相づち、繰り返し表現の学習を取り入れている。また、Program5 のパフォーマンステストでは人物紹介の発表を行い、Program6 のパフォーマンステストでは、人物紹介のやり取りを行い、Our Project2 につなげることができるように指導を行ってきた。

## 5 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
[知識] ① There + be 動詞や how の特徴やきまりに関する事項を理解している。 [技能] ① 町や地域について、There + be 動詞や how、既習事項を用いて伝える技能を身に付けている。	① 外国の人に「行ってみたい」と思ってもらえるように、町や地域のことについて、簡単な語句や文を用いて即興で伝えている。	① 外国の人に「行ってみたい」と思ってもらえるように、町や地域のことについて、簡単な語句や文を用いて即興で伝えようとしている。